

湯来地域における小学校・中学校の在り方について

1 経緯

湯来地域における小学校・中学校においては、小学校では、3校中2校（湯来東小、湯来西小）で複式学級を編成し、中学校では、2校中1校（湯来中）で各学年の生徒数が1桁台となっており、小規模化による教育面の課題が生じている。

また、学校の校舎は、その大部分が建築後50年を経過しており、今後、施設の更新や大規模な改修が必要になるものと見込まれている。

こうした中、地域住民が主体となって、教育面の課題解決のみならず、地域全体の活性化に向けた有効な方策につながる学校の在り方について、以下のとおり検討が進められてきた。

○ 湯来地域における小学校・中学校に関する意見交換会（R2.10～R3.4）

湯来地域の学校の現状や課題について、地域住民の共通理解を深めるため、全4回開催された。意見交換を通して、学校は子どもに教育を提供するだけでなく、まちづくりの上でも地域に必要なものであるという理解の共有が図られた。

○ 湯来地域における小学校・中学校の在り方検討会議（R3.8～R4.7）

意見交換会の内容を踏まえ、将来にわたって湯来地域に学校を存続させ、子どもたちに質の高い教育を提供し続けるとともに、学校を「地域コミュニティの核」としていくための在り方について、湯来地域としての意見を取りまとめるため、全6回開催された。

※ これらの検討は、企画総務局地域活性推進課が進める戸山地域・湯来地域の活性化に係る取組と連携を図りながら進められてきた。

検討の結果、湯来地域の全ての小・中学校を統合し、1つの小中一貫教育を行う学校を設置することが望ましいとの合意形成が図られ、令和4年9月2日、本市に対して提言書が提出された（資料2参照）。

2 市としての対応方針

地域において立ち上げられる「湯来地域における小中一貫教育校設置検討会議」を地域の窓口として、2～3か月に1回程度、協議を実施し、概ね1年後を目途に提言内容の具現化に向けた方向性を取りまとめる。

【参考】湯来地域の小学校・中学校（令和4年5月1日現在）

校名	学級数	児童・生徒数	築年数	備考
湯来東小学校	3(4)	18人(20人)	53年	全学年が複式学級
湯来西小学校	3(4)	8人(9人)	56年	1・2年が複式学級、3・5年が単式学級、4・6年が0人、敷地の一部が土砂災害特別警戒区域
湯来南小学校	6(8)	123人(131人)	54年	全学年が単式学級
湯来中学校	3(3)	12人(12人)	55年	敷地の一部が土砂災害特別警戒区域
砂谷中学校	3(5)	54人(58人)	44年	

※ ()は特別支援を含んだ学級数及び児童生徒数